

旧千葉街道

旧千葉街道は、元佐倉道とも呼ばれ、両国橋から竖川沿いを東へ進み、逆井の渡しを経て、小岩、市川、佐倉へと至る街道でした。江戸と下総を結ぶ重要な交通路で、成田山や香取神宮へ向かう参拝者でにぎわっていたとそうです。

今こそ車が駆け抜け、両側には会社や民家が立ち並び、当時の面影はありませんが、歩いてみると、まっすぐに続くその道が街道の風景を思い起こさせてくれます。万治2年(1659)、幕府から本所開拓を命じられた徳山五兵衛重政、山崎四郎左衛門重政の二人が、街道に沿って流れる竖川の整備を始めます。中川側と隅田川側で狼煙をあげて工事が進められ、西側から一之橋、二之橋、と順番に6つの橋が架けられました。現在旧千葉街道の由来を記した石碑の残る五之橋は、せっかく橋が架けられたものの、当時この付近を往来する人が少なかったため、幕府により「無益之場所」とされ、たった25年で取り払われてしまいました。

その後橋のあった場所は渡し場となり、また大島に五百羅漢寺ができたため、「羅漢の渡し」とも呼



ばれ、利用する人も増えたので明治12年(1879)、また新たに橋が架けられました。

「都の再開発によってこの辺りの風景もすっかり変わってしまいました」というのは浅間神社(亀戸九)の女性宮司玉野さん。現在場所移動のため工事中の浅間神社社殿は、昭和9年「亀戸の富士塚」の上に、富士山の方角(西南)に向けて建てられました。ここには富士山自体を神そのものとする、民衆宗教の一派である富士講のお伝えが所蔵されています。また旧千葉街道沿いにあった道標やお地蔵様もお祀りされているとか。

ここ浅間前から都電に乗って日比谷まで行けた時代がありました。新しく旧中川に架けられた、まだ名のない橋は、都電の陸橋だった所。今ではマンションが並びすつ

かり風景は変わりましたが、橋に埋め込まれたタイルに描かれた、可愛らしい都電の絵を眺めていると、川面にその姿を写しながら、ガタゴトと都電の行き交う音が聞こえてきました。

